



# 東九州支部報

## 第65号

公益社団法人日本山岳会 東九州支部  
2014年4月25日(金)発行



平成26年度定期総会（4月12日（土）・大分市コンパルホールにて）

### 目次

支部活動報告			個人投稿		
支部定期総会開催	飯田勝之	2	より安全な登山のために(12)	安東桂三	7
阿蘇・高岳	小野貴明	3	三角点と山城探訪シリーズ(10)	安部可人	8
大篋柄岳・御岳交叉縦走	木本義雄	3	私の無名山ガイドブック(53)	飯田勝之	9
行藤山	下川幸一	5	お知らせ	事務局	9
英彦山	池永光希	6	後記	事務局	11

## 支部定期総会を開催 平成26年度事業計画などを決定

平成26年度定期総会が去る4月12日(土)午後六時から大分市コンパルホールで開催された。総会ではまず議長に園田暉明会員(13135)を選出し、園田議長の下で総会次第にもとづいて議事が進行された。まず最初に事務局から資格審査発表があり、4月10日現在の会員75名のうち出席者51名(そのうち委任状出席19名、別に会友の8名出席・委任状出席26名)で規約第15条に定める、会員の過半数以上の出席により、総会が成立していることの報告があった。このあと議事録署名委員の選出で、議長より甲斐一郎会員(10793)と塩月靖浩会員(14952)の両氏が署名委員に指名された。

次に挨拶にたった加藤英彦支部長より「公益社団法人として2年経過したが、その反省のうえにたつて、3年目に向けて支部の活動をさらに展開していきたい。山の日制定運動なども展開されており、大分県においても登山の普及と支部活動の活性化、支部会員の拡大増強などに向けて、会員・会友のいっそう努力と協力をお願いしたい」と述べた。

このあと議事に入り、第1号議案の平成25年度事業報告について事務局から説明があり、報告通りに承認された。第2号議案平成25年度会計決算報告について会計から決算報告、監事から監査報告があった。この報告では特に公益社団法人に移行した一昨年から、本部から交付される公益事業補助金および共益事業交付金について、一般会計から特別会計へ拠出して、特別会計で決算報告するという二本立てになっている関係で、複雑になっていることに疑問が出された。これについては会計からその仕組みや取り扱い地について説明があり、決算報告は承認された。

続いて第3号議案の平成26年度事業計画案について事務局から提案があり、この中で新しく「おおいた山登り塾開催事業」などを折り込んだ新年度の公益事業計画や、共益事業計画の提案があり、公益社団法人3年目に向けた事業計画が原案通りに承認された。第4議案の会計予算案について会計から提案があり、昨年の支部会費の値上げ時に、本来支部経費で支出すべき経費を、これまで個人負担で行ってきた部分があり、これらについては支部から拠出していくことにしてい

たが、平成25度は前年までの慣例で個人負担のままにしてきた部分が残ったので、26年度からはそうした支出は適正にしていくことが説明され、予算案も原案通り承認された。

## 「大分山登り塾開催事業」

平成26年度事業計画案では特に公益事業として新しく「おおいた山登り塾開催事業」などの提案があった。この事業は従来の登山入門教室と少年体験登山大会を一つの事業にまとめ、さらにその中に登山入門教室受講者のキャリアアップ講座(中級講座)の新設や、入門講座受講者の自主的研鑽とネットワークづくりを目指した『受講者同窓会』づくりとその援助などがある。また、支部会員向けの共益事業では技術・技能の研鑽・向上を目指した実践研修会の実施や『支部青壮年部』の組織化など、会員増強と次期リーダーの育成に向けた事業が注目される。

これらの事業を今後どのように具体化していくかについては役員会で検討されることになるが、成果は具体化されるときに会員の参加と取り組みにゆだねることになる。そして、こうした公益社団法人3年目に向けた事業計画の推進の正否が、支部の活性化に繋がると考えられる。

## マイカー乗り合い同乗の謝礼や 支部名の変更なども議題に

総会では、これまではっきりした取り決め等がなかった、会員同士が相乗りしてマイカーを使って月例山行など、登山活動を共同で行うときの、ガソリン代などの謝金や、行動中の経費負担について、支部会員の申し合わせ事項を決めた。(内容はお知らせ欄参照)

また、その他議題では支部の名前を現在の『東九州支部』から『大分支部』に戻してはどうかという意見があった。これについてはまだ役員会では結論を見ていないので提案に至っていないが、今後支部内で議論を重ねていくこととなった。支部名は昭和35年の設立時は『大分支部』でスタートしたが、昭和40年に宮崎県の会員7名が加入したことにより『東九州支部』と改名しており、その後昭和60年に宮崎支部が分離独立した後も名前はそのまま残してきたいきさつがある。(文責 飯田)

## 阿蘇高岳(1592.3m)

1月月例山行報告

小野 貴明 (15286)

1月19日(日) 9:00 阿蘇仙酔峡登山口出発～11:40 火口縁分岐～11:50 高岳～昼食～12:30 下山開始～12:40 火口縁分岐～14:40 仙酔峡登山口

前々から阿蘇山に登りたいと思っていたがなかなか予定が合わずに今日まで至る。東九州支部の月例山行でようやくその機会を得ることができたのはうれしい限りである。昔家族でロープウェイに乗った記憶がうっすらあるが、今はもう営業していないらしい(運休中)。無人の建物を見ると寂しさを感じる。

季節になるとミヤマキリシマが咲き乱れるということで、確かに登山口からはまだ蕾のままのミヤマキリシマがある。うっすらと雪が降っており駐車場は積雪している。歩き始めた直後に見た凍りついた滝と川は一見の価値あり。1月の阿蘇の寒さを物語っていた。

登山口からは岩場というかガレ場というか、とにかくずっと続く。普段の登山で見ると所謂「木」というのがない。「ずっとこれが続くのかあ」と思わず口に出すと誰かが「そう。阿蘇はずっとこれだよ」と言った。なるほど。これが阿蘇か…。夏は暑いかも。2時間40分程で火口縁分岐へ。だいぶ積雪しているので帰りはアイゼンがいるかな。

ここから阿蘇の山頂である高岳までは10分程度である。ガスがかかり視界は良くない。全員無事に山頂まで到着。景色がよかったらなあと僕だけでなくみんな思っていたのだろう、なんと太陽が顔を出し阿蘇の景色がひらけた。『おおー、すごい!』山頂からの眺めは阿蘇の雄大な自然を感じさせる。すばらしいの一言



(高岳山頂にて)

である。

昼食をとり下山開始。アイゼン使用。帰りは中岳を経由したかったのだが阿蘇山は2014年1月13日中岳第一火口で小噴火しており今は入山規制がかかっているため、中岳の方へは行けない。高岳まで規制されてなくてよかった。

だいぶ晴れてきたので下の方はもう雪がない。ひたすら岩場を下る。この尾根は通称バカ尾根と呼ぶと星子さんが教えてくれた。星子さんは若い頃はよくこの阿蘇を訪れていたみたいで、大学生時代の話や当時の登山のことなどいろいろと話してくれた。当時の山道具の話はとても興味深いし参考になる。今は贅沢だな。ところで、星子さんが大学生の頃って何年前だ…? まあ、だいぶ前だろう…。

晴れたので登りには見えなかった鷲ヶ峰が見える。この峰はクライミングのメッカでここで多くのクライマーが命を落としたらしい。登山口に近づくと亡くなった人たちの石碑が一樣に鷲ヶ峰の方を向いている…。やがて我々は全員無事に下山する。

今回は高岳までであったが規制が解除されれば中岳へも行ってみよう。次回の山行もお願いします。

参加者…星子、加藤 佐藤(秀)、中野、久保 下川(幸)、塩月、中島 藤原 阿部(幸)、小野(貴)、遠工、渡辺(千)、渡辺(和)、池田、芝田 工藤 甲原

## 大篋柄岳(1236.4m) 御岳(1181.6m) 交叉縦走

2月月例山行報告

木本 義雄 (12019)

2月8日(土) 小雨のち晴れ

08:00 大分駅南口を12名・車3台で鹿児島県垂水市に向け出発。行程が300kmを超えるため、休憩場所を「北川・はゆま」宮崎道「山之口SA」に決め小雨の中を出発した。

山之口SA(12:15)で昼食後、都城ICから国道10号線を南下、県道478号で近道して国道220号線をさらに南下。錦江湾の東岸の景色を楽しみながら垂水市に

(道の駅垂水にて・後方は桜島)



入り、「道の駅・垂水」(14:00)で噴煙を上げる桜島を背景に集合写真を撮影。垂水市内で二日分の食材を購入し、今回の宿泊地「猿が城・森の駅たるみず」に15時40分頃到着した。

貸し切りのコテージに荷物を運んで、さっそく食糧担当・遠江さんを中心に夕食の準備をし、交代でコテージの温泉や近くの猿が城温泉に入浴して疲れを癒す。

夕方、地元の垂水山岳会の宮原さんから明日縦走する山の最新情報と溪谷遊行の説明を受けることができ、とてもありがたかった。夜は、宮原さん差入の焼酎等を飲みながら「すき焼き」で親睦を深めた。

2月9日(日) 晴れ

今回の山行は、支部長の提案により「大籠柄岳・御岳」を双方の登山口から登り、下山後それぞれの車を利用する交叉縦走とした。

朝食後、A班(飯田・中野・阿部幸・遠江・木本)＝垂水登山口～大籠柄岳～スマン峠～御岳～鳴之尾登山口と、B班(加藤・下川・久保・芝田・小野)＝鳴之尾登山口～御岳～スマン峠～大籠柄岳～垂水登山口



(妻岳にて・A班)

に分かれて、車でそれぞれの登山口に向けて出発。C班(西・阿部和)は「猿が城溪谷」付近の散策を楽しんだ。

アイゼンや火山灰対策のマスク・サングラスを準備していたが、雪はなく、登山道や木々に降り積もっていた火山灰も前日までの雨で流されていて使わずに済んだ。

A班コースの林道および登山道は年末の視察時よりもきれいに整備されていて、照葉樹やスズタケに挟まれながら、大隅山系最高峰の「大籠柄岳」を目指した。山頂では天候に恵まれ、360度の眺望で霧島連山から開聞岳方面、光輝く錦江湾の眺めが素晴らしかった。

山頂から御岳への縦走路で「B班」と出会い、「車キーの交換と集合写真撮影」の後、それぞれの下山口に向かった。

「大籠柄岳～スマン峠～妻岳～御岳」の間は、赤い躑躅の花を見ながらの縦走だった。

下山後、翌日の「甫与志岳・稲尾岳」の登山計画について打ち合わせたが、天気下り坂のため朝の天候で最終決定する事にし、「水炊き」鍋での懇親会となった。



(御岳にて・B班)

2月10日(月) 雨

朝起きると夜半からの雨がひどく、「甫与志岳・稲尾岳」の登山計画は中止して内之浦の「宇宙空間観測所」見学に変更。志布志の「蕎麦処・吹上庵」で昼食後、「宮崎市椿山公園・野口秋人記念園」に寄る予定だったのを中止して帰途につき、「道の駅・はゆま」で解散(16:15)。大分県に入ると雨が雪に変わり、早めに帰途についたのは正解であった。また、翌日にかけて全国的に記録的な大雪となったことを考えると目的の高隈山系は好天に恵まれて、幸運な山行であったと思う。参加者：リーダー…加藤、飯田、西、阿部和子、中野、下川、久保、阿部幸子、遠江、芝田、小野、木本

## 行 藤 山 (829.9m)

3月月例山行報告

下川 幸一 (14504)

月例山行「九州の名山を登る」のテーマの下、宮崎県延岡市の西部に位置する、行藤山が選ばれた。四季を通じて人気のある山だ。

行藤山の名の起こりは、遠くから見える形が乗馬の際に使った、「行藤」という皮脚絆に似ていたことから、この名がついたといわれている。花崗岩脈が通り、山頂は雄岳、雌岳の双耳峰で、その岩壁の間から落ちる行藤の滝は「日本の滝百選」に選ばれている名瀑である。

3月9日(日)、大分駅上野の森口前に集合。幸いにも本日は快晴の登山日和で、皆、本日の山行への期待が一段と増し笑顔でいっぱいだ。

5台の車に分乗し、予定通り6時に延岡目指して出発する。国道10号線経由で、三重より国道326号線に入り、7時30分に道の駅「はゆま」に到着。ここでいったん全員集合して、北川ICから東九州道を延岡市に向かって出発。延岡JCから北方延岡道路を少し行って舞野ICから行藤山登山口に向かう。

やがて、遠くに行藤の滝をはさんで雄岳、雌岳の岸壁が迫ってくる。行藤神社を通り過ぎ、8時50分に車道の終点の登山口に到着。ここには10台位駐車できる広いスペースがあり、立派な案内板もある。

まず、本日のリーダー中野稔さんのリードで柔軟体操をし、続いて本日のコース説明があった。また19名という大人数のため、団体登山の諸注意もあった。先頭は中野リーダー、アンカーは佐藤秀二さん、会友の間に会員という隊列で、8時30分に出発する。

登り始めて10分程で、左側の神社からの登山道と合流する。途中で溪流に川魚が泳いでいるのを発見し皆大喜び。危ない木橋を慎重に渡ると、谷川沿いの道が石畳の道になり、ジグザグに登っていく。

まもなく、平成11年に完成した立派なコンクリートの「滝見橋」に到着する(8時45分)。橋上から樹林越しに行藤の滝を見上げ一同大感動!!

橋を渡って、自然林の中の階段状の道を10分程進むと、左側に滝へ通じる分岐点があり、9時丁度に行藤滝の下に到着。

幅20m、高さ77mの落差のある滝は、巨大なスラブの上を一条の布のように流れ落ち、迫力満点である。

登山道に戻り、急な登りを進んで行くと、巨大な垂直の岩の中程に、ピンクの綺麗なミツバツツジを発見。さすが南国宮崎だ。

急な登りを進むと、右手に雌岳への分岐点の標識が現れる。左へ進むとまもなくジグザグの丸木の階段があり、やがて山の神のある峠に着く。

ここで道が分岐し、県民の森コースと雄岳山頂コースに分かれる。左へ下る道をたどり、危なっかしい丸木橋を渡り、傾斜面のゆるい植林内を登って行くと、最後の水場が現れる。冷たくて美味しい水をたっぷり飲み元気いっぱいになる。

再び自然林に入り、やがて稜線に出ると、右に県民の森への登路が合流する。稜線を左に進み樹林から抜け出すと、岩盤が露出した雄岳山頂に到着した(10時25分)。



(行藤山雄岳山頂にて)

山頂からの眺めは素晴らしく、特に雄岳の名の如く、岩盤が荒々しく露出し、南東側の絶壁は高度感があり格別な世界であった。暖かい日差しとすばらしい眺望とスリル満点の岩壁の中での昼食は最高であった。

昼食後、全員揃って記念写真を撮り、11時丁度に雌岳目指して山頂を出発。岩場の溪流渡りにゆっくり時間をかけ、危ない木橋を慎重に渡り、やっと県民の森分岐に到着する。

分岐を左折し、きれいに整備された登山道をゆっくり進み、約20分で「県民の森あずまや」分岐に到着。小休止の後、傾斜の緩い杉林の中をゆっくり進む。

やがて峠に飛び出し、尾根道の登り下りを繰り返しながら一気に進み、雌岳山頂に12時40分に到着する。あいにく山頂は木々に覆われており、展望がきかないのが残念であった。

ここで全員の記念撮影をする。雄岳、雌岳の縦走で皆笑顔でいっぱいだ。13時10分、登山口目指して雌岳を出発。険しい岩場の連続でかなり道が荒れている。



(行藤山雌岳山頂にて)

この雌岳コースは登る人が少ないせいか、倒木や崩れた箇所が沢山あり、急斜面の中を慎重に下って行く。

思ったより時間がかかり、雌岳分岐まで1時間もかかってしまった。滝見橋で行藤の滝に最後の別れを告げ、14時50分に登山口の駐車場に全員無事に到着する事が出来た。

全員柔軟体操をし、ここで解散式を行う。途中、道の駅「はゆま」で小休止し、一路大分へ向かう。5人のドライバーの皆さん(星子、飯田、中野、佐藤、若月)、長距離の運転お疲れ様でした。

参加者…(会員) 星子、飯田、佐藤(秀)、中野、久保、牧野、下川(幸)、下川(智)、阿部(幸)、小野、(会友) 石川、長野、遠江、岐部、池辺、宮原、若月、薬師寺、井上

## 英彦山(1199.6m)

### 4 月 月 例 山 行 報 告

池 永 光 希 (14802)

「九州の名山に登ろう」4月の月例山行の行き先は、大分・福岡の県境にある英彦山(1199.6 m)だ。4月6日(日)、午前6時過ぎに大分駅に集まったのは18名。4台の車に分かれ出発。途中、窓越しから見える空は雲行きが怪しく、天候が不安。7時に日田IC出口のコンビニで別府から来た車も集合で合計21名となった。日田から中津市山国町の奥へ入って行き、福岡県との県境の野峠が近づくと道の両側に雪が残っていて、峠にさしかかると路面は積雪で真っ白。カーブが危ない。

登山口である、豊前坊(高住神社)に着いたのが8時30分過ぎ。案の定駐車場も目の前にそびえる英彦山も雪化粧だ。ここで車二台が出かけて、一台を下山口の英彦山神社下へ置いてくるのを待つ。

全員集合で、新しい顔ぶれもあり簡単な自己紹介をする。そして、準備体操をして9時に登山開始だ。鳥居をくぐり、クサリ場などを通して自然林を歩くこと1時間半、祠のある北岳(1192m)へ着く。記念写真などを撮り、ちょっと休憩して中岳へ。

北岳から中岳にかけてのブナの自然林がほとんど枯れて、その植生復活のための苗が植えられている。大きな登り下りもなく、30分程度で中岳(1180m)へ。ここでお昼御飯だ。雪がつもっている中、風にも強く、神社の境内の裏で昼食を頂いた。

お腹も一杯になったところで、南岳へ。児玉さんは普通のスニーカーで、滑ってはマズイとあえなく断念。南岳への登りはかなりの急登。しかも雪が凍っていて足元が不安定で、やっとのこさで頂上につく。1等三角点(1199.6m)のある南岳で皆で写真撮影。大南神社経由の下山も計画に入っていたようだが、積雪で足下が危ないため時間がかかりそうなので引き返すことになる。風がありあまりの寒さのため急いで中岳を目指す。凍った急斜面は下りも慎重に。

中岳へついてちょっと一休みして13時45分、下山開始。下山するにつれ、足元の雪もなくなり歩きやすくなった。1時間弱で大きな社殿のある奉幣殿に着く。ここでまた一休みして駐車場へ下り、そこに置いてあった一台の車に運転手が乗って高住神社へ車を回収に行く。帰ってきて全車集合して今日の反省をし、車に分乗して流れ解散となった。

私は、英彦山に登るのが初めてで、とても楽しかったです。次のテーマはまだ分かりませんが、今年の月例山行にも積極的に参加して先輩方の技術、知識を盗みたいと思いますので、よろしくお願いします。



(英彦山南岳山頂にて)

参加者…(会員) 首藤、飯田、児玉、木本、佐藤(秀)、中野、久保、牧野、池永、小野、中島、阿部、桜井、(会友) 遠江、宮原、若月、芝田、柳瀬、工藤、秋吉、(一般) 仲村

註 国土地理院の発表では、1m高くなった山48山、1m低くなった山39山あり、4月1日から適用することとなった。これによると低くなる山の中に英彦山がありこれまでの1200mから1199mとなった。(事務局記)

## 個人投稿

### より安全な登山のために No12

## 『雨氷(うひょう)』

安東桂三 (9193)

大分合同新聞2014年2月9日の朝刊に以下の記事があった。『積雪困難 注意』、九州横断道路が雪による倒木で約20キロにわたり通行止めになり、また、鶴見岳で雨氷を観測したと言う内容であった。列島南側で発達した低気圧による雪の影響が大分県内の道路の通行止めや、高圧線の断線などを起こしたというものだった。

数日後私はこの新聞記事の切り抜きをもち、大分地方気象台を訪れた。いくつかの不明点を解決しようと質問をした。この南岸低気圧、雨氷、その予測などを私は素人考えながら自分なりの知識をもってしたが、それを確かなものにするため、あるいは間違いを正すために。

『雨氷』の定義は、一般に均質で透明な氷層が地物に付着した現象。過冷却した霧雨または雨(着氷性の霧雨または雨)が、0℃以下または0℃よりわずかに高い温度(過冷却でない場合は0℃以下)の地面や地物にあたって凍結したものである。

私が『雨氷』の言葉を知ったのは、岳人(2013年11月号)の記事、『山で起こる低体温症』の一文からで、白馬岳2012年5月4日の北九州のドクター達が、吹きさらしの2700mの稜線上での遭難、避難する間もない急激な体温低下での低体温症になったと推察し、遺体を収容した長野県警山岳遭難救助隊員の談によると、「遺体は厚さ10センチほどの氷に覆われていて、遺体を傷つけないようにしてピッケルで氷を割らなければならなかった。雪に埋まったというより、つららが成長した氷づけだった」との証言だった。この遺体が水氷で覆われていたということから、この氷はおそらく『雨氷』によるものと記載されていた。同じく5月4

日の爺ヶ岳の女性の遭難も、同じような氷づけの姿だったと言う。また同日の涸沢岳でも遭難が起こった。

このようなことから私は『雨氷』の怖さを知り、如何に予測するか、対処するかを常に考えていた。

私はこの2月8日に仲間と車で通行止めとなった九州横断道路を通行し、翌9日には三俣山に登った。道路には倒木や雪や氷により垂れ下がった樹木があり、それをよけながらの走行であった。重たい雪(水分を含んだ雪)のためだろう位しか考えてなかった。ところが三俣山に登ると、ミヤマキリシマや笹の上などには氷とツララがあり私は、この現象は『雨氷』だと直感した。

そのような経験からの気象台訪問だった。この短文では気象庁職員との内容を、報告するのは難しいので割愛するが、『雨氷』は九州でも起こるし、5月の日本アルプスでも起こる。

ゴアテックスの雨具を装着していても、降ってきた雨が瞬時に凍りつき、氷の鎧をまってしまう。体温を奪われ大変な事態となる。

もし日曜日などの登山者の多い時間帯であれば、九重山でも同じような氷漬け人間が何人も出来てしまうかもしれない。北アルプスなどに出かける登山者と比べて九州の登山者は装備が悪い。その事を十分に肝に銘じておくべきと思う。

空に過冷却が起こり、水分が水滴のままに有るときは要注意。気象予報士が、上空に寒気が来ていると言ったら要注意。気象予報士が雷が鳴ると言ったら要注意。『雨氷』は私には関係ないと思う登山者は要注意。

『私は遭難とは関係ない』と思う人は本当に要注意。



写真 三俣山の山頂付近の状況 笹につららが下がっている。降ってきた雨が水滴となり、笹から垂れ下がりながら凍り、つららとなっている。

## 大村山と妙見山・竜王山

### 三角点と山城探検シリーズ第10回

安部可人(友11)

屋山城主8代吉弘氏直は19歳、血気にはやりすぎて、寒田親将の制止聞かず、大村山陣を下り敵に突入し落馬、全身に矢をうけ討たれる。有名な戦だから、あまり書かない。宗麟の父義鑑の時の出来事、宗麟4歳、鉄砲は伝来してない(注1)。

1534年、大内軍は侵攻して来た。領地の宇佐に上陸、糸口原に駐屯。大内方の佐田朝景が案内、佐田峠から4月6日早朝勢場ヶ原に到着して仕掛けた。大友軍は吉弘氏直・寒田親将が大村山に布陣。別動隊は10号線を侵攻コースと予想し地蔵峠(定野尾)と立石峠に布陣。意表をついて敵は西から来た。大友は緒戦で大敗して、別動隊が急遽反転、弔い合戦は勝利した。

1. 大村山1等三角点418.6m山城はない。素晴らしい眺望、美しい裾野、まるで映画のような戦闘シーンだっただろう。源氏氏直以下の将兵の墓と末裔の人たちが先祖祭りのためのベンチあり。駐車場から15分。さて舞台は山香から院内・安心院へ、大いに関係がある。

2. 佐田城・青山・310m佐田小学校から取り付いて40分。北へゆるい快適な尾根だが長い。第2展望台から防御の遺構がある。広い300m台地(築城時削平された)の山頂まで虎口・堀と石垣がある。山頂の説明板から左右20~60m、特に弱い西側を探検すれば、10m高の空堀が100m連なり主郭を取り巻いている。暗いから独りでは恐ろしい。これほど深い横堀は県下にはない。登山してこれを見逃すとは惜しい。国史跡候補だ。支尾根には4ヶ所郭があり、近辺の豪族たちとの共同の城という。

3. 妙見山・妙見嶽城・444mその2年前の1532年、大内方の宇佐・下毛の諸将は大内方の守護代杉氏と当城に籠もり、大友軍の攻撃を阻止した。大内滅亡、つぎは毛利軍がきて、宇佐衆はまたどちらにつくか大いに迷った。やがて大友の城となり、悪評の田原紹忍が城主となり国境を固めた。香下ダムの白柱が登山口。射場越まで30分で楽、右へ急になり15分で大堅切跡(未確認)、5分で謎の手洗い石、また15分で山頂の説明板をみる。高速道路方向に下ってみたいが、まだ実行できない。「山頂には“天狗松”が見えて、子供の時怖かった」は櫛野城址前の櫛野政純氏の話だ。

4. 竜王山城 3等三角点315.4 3等は山城が多い。大友16政親、大内義隆城代・城井氏等と変遷はあったが、安心院氏9代250年間の城。此処も妙見嶽城とともに重要な拠点で多くの戦さを見た。1556年、義鎮が大軍で来て宇佐衆を味方にした。高城耳川で大敗後、1579年、石塁で有名な長岩城の野仲重兼謀反。

1582年、当城主安心院麟生叛旗、結果麟生切腹。千代松丸は櫛野越えて防戦戦死、夫人も自殺。千の岩の北側に案内板、海神社に上がって駐車。20分。九人峠、安心院家族旅行村さき、王様ぶどう店前に案内板。ヤブの小径5分、トンネル真上の昔の峠を九人峠と言う。電柱下に六地藏(徳川時代)を見る。主君を救えなかった9人の家臣がこの見晴らしの地で自刃した。安心院氏滅亡の哀史は伝承である。妙見山山頂の説明板に、「天正10(1582)、田原紹忍は竜王城の安心院麟生と千代松丸を招待し、帰途謀殺した」とある。真実は不明。\*あと4年で島津が豊後に侵攻する。次回の田原親宏や田北紹鉄も粛清された。そんな暇はない。情報不足、島津への備えを忘れた。

6. 光岡城。大友方の城主赤尾賢種は毛利方の時枝城主と土井城主に法要の夜襲撃されて討たれた。空堀が見事、公園化されている。

7. 高山城。伊呂波川の中麻生。地元が林道を整備して、案内板を設置した。駐車場から鞍部まで15分、井戸跡から左急登15分。大友氏に抵抗して落城自害の麻生親政の城址。対面に落石注意の石井山3等三角点あり。

(註)50年後、先祖を見習ったのか高橋紹雲、吉弘鎮信、吉弘統幸が相次いで戦死、勇名を残した。去年の「吉弘楽」で50年間欠かさず出席の22代吉弘尚正氏・85歳(東京在住・なかなかの大男)とお会いした。今も文通し・電話あり。主君大友義統は“東軍につくべし”の吉弘統幸の諫言を受け入れず、統幸は石垣原で戦死し永遠の勇将となった。もし官兵衛の忠告をいれ東軍に見方していたら、歴史は違っただろう。義統は判断を間違えた。



「安心院町誌」「城郭大系 16」、「宇佐、下市、立石 斎藤」吉弘嘉兵衛統幸(吉弘神社春のお祭りで尚正氏ほか名士と会った。その一人糸永光氏が吉弘楽の楽庭八幡社に奉納した肖像画)

## 私の無名山ガイドブック N053 細子と元猿

飯田勝之 (10912)

蒲江町蒲江の背後の、旧佐伯市と旧蒲江町との境界をなす主稜線から少し南にせり出したところに、東西に連なる小稜線がある。この小稜線は河内の東から始まり、曲りながら東に延びて仙崎まで至っているが、今回はこの稜線上の二つの三角点を紹介しよう。一つは同稜線上の最高地点の細子、もう一つはその東にある元猿という点名のある小ピークである。

### 細子(356.3m)

県道佐伯蒲江線の蒲江町河内の手前にある、旧県道にかかる橋から500mあまりのところから東に入る林道は、稜線の峠を越えて反対側の楠本湾の正金に至っている。この林道の峠を登山口にするのが良い。河内の旧県道から舗装された林道が曲がりくねって高度を上げ、約4.5kmで標高240mの小さな掘り割りの峠に至り、左に二つの林道を分けてまっすぐ下っていく。この峠の50mほど手前の道路右手の崖に小さな踏み跡がありこれを上るとよい。灌木林の中をやや斜めに東に行くと、左(東)がヒノキ林、右(西)が天然林で、この植生境の稜線を真っ直ぐ登っていく。10分ほどの急登でちょっと一段落。しかしその少し先からまた急登で、今度は右がヒノキ林、左が天然林に変わり、7分あまりの急登で明るい山頂に達する。二本の紅白測量ポールが横たわるそばに3等三角点の標石がある。北側がヒノキ林だが、南側は少し伐り開かれて、元猿湾や背平山などが望める。

### 元猿(274.9m)

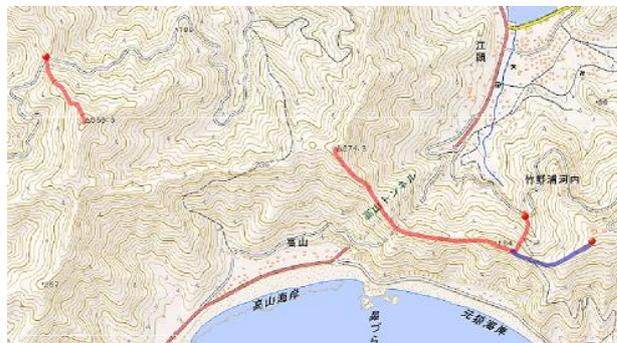
国道388号の高山トンネル東口にある高平山展望台への車道を上ると、入り口から600mあまりのところの大きな左カーブ地点が登山口によい。南のスギ林にはいると古い道がトラバース気味に南に登っているが、これは地形図の波線の道で、荒れてしまっているので、斜面を直登とするように登ると良い。スギ林から灌木林に変わると道路から15分ほどで平らな稜線に至るので、これを右にたどる。稜線の左手(南)斜面は照葉樹の灌木林、右手(北)斜面は植林地で、その堺の稜線上は開けて歩きやすい。緩いアップダウンを三つほど重ね、稜線に出て15分あまりで送電線鉄塔の下

に至る。ここから急斜面の直登が始まる。右ヒノキ林、左灌木林の間をまっ直ぐ登っていくと、7、8分であった傾斜が緩み、その先で再び急登となる。露岩が目立ち始めると頂上は近く。鉄塔から10分あまりで山頂に達する。中央に4等三角点があり、南東側の展望が開けている。

高平山の展望台まで車で上れば、西端にあるコテージの横を通って西に延びる稜線の急斜面を下っていけば、前記の登山口から登山口に至ることができるが、読図力とやや濃いヤブ分け30分のアルバイトを要する。

参考タイム…○林道の峠～20分～細子山頂

○道路～15分～稜線～15分～鉄塔～10分～元猿山頂  
2万5千分の1地形図…蒲江



## お知らせ

### 月例山行のご案内

#### 5月月例山行：貫山(711.6m) 福岡県

月 日…5月18日(日)

出 発…18日(日) 午前6時発

集合場所…大分駅上野の森口広場

参加申込及び問い合わせ連絡先…5月12日(月)までに

リーダー：中野 稔(090-2712-5225・097-543-3903)まで

#### 6月月例山行：釈迦岳(1230.8) 大分県・福岡県

日 時…6月15日(日)

出 発…午前6時

集合場所…大分駅上野の森口広場

参加申込及び問い合わせ連絡先…6月9日(月)までに

リーダー：下川 幸一(090-8662-5100・097-544-0563)

## 7月月例山行：鳴子川 九重町

鳴子川沢登り(初級向け)・暮雨滝の他に滝が2本あり。

日時…7月20日(日)

集合…九重町吉部登山口 8時30分

装備…ハイキング装備(雨具、昼食など)の他に、沢シューズ、ヘルメット、ハーネス、簡単な登攀具(カラビナ、スリングなど)ロープがある方は持参ください。下山は、登山道です。登山靴も忘れずに。装備のない方、現地までの交通機関のない方は相談ください。  
リーダー：安東圭三(090-5727-9472)

※ 各山行時の準備する食糧や装備及び配車その他の詳しいことについては、事前に担当リーダーとよく相談しておいて下さい。

## 第1回支部役員会の開催案内

日時…5月14日(水)午後6時30分より

場所…大分市「コンパルホール」

- 議題…① 平成26年度事業計画の具体化について  
② 当面の取り組みについて  
③ その他

※ 役員の方のご出席をお願いします。

## 今年度の支部協賛事業の紹介 エベレスト街道トレッキング

場所…ネパール

山名…ゴージャョピーク 5360m

期日…10月中旬より20日間

集人数…10名

主催者…星子貞夫(080-2724-2438)

## 尾瀬

日程…5月31日(土)～6月3日(火)

目的地…尾瀬(燧ヶ岳、至仏山 登頂予定)

費用…65,000円(予定)

主催者…久保洋一

参加申込期日…航空券の早割、関越高速バスの予約の関係で4月30日までに連絡をお願い致します。

申し込み先…久保洋一(090-8353-9770)

## 登山入門教室のキャリアアップ講座 北アルプス表銀座コース

期日…8月13日(水)～17日(日) 4泊5日

コース…中房温泉～燕岳～大天井ヒュッテ～西岳～水俣乗越～槍ヶ岳～上高地

費用…90,000円

リーダー…加藤英彦

## 全国支部懇談会のご案内

主催 埼玉支部

期日 平成26年10月18日(土)～19日(日)

場所 埼玉県秩父市

ナチュラルファームシティ農園ホテル

内容 講演会、交流会、登山(両神山または武甲山)

参加費 16,000円(夕食・交流会・2日目の朝食・昼の弁当代含む)。両神山に参加の場合別途3,000円(バス代・入山料等)

申し込み期限 6月30日まで

※ **参加希望者**は支部でとりまとめて申し込みますので**6月20日**までに**支部事務局**まで申し込んでください。

## 安全のための知識と技術公開講座

日時：2014年5月27日(火)午後5時30分開場

(午後6時00分開講、午後8時20分終了予定)

もれなく夏山に役立つアイテムをプレゼント!

場所：ホルトホール大分 大会議室(3階)

入場無料：300名様

主催 (公社)日本山岳ガイド協会ほか

事前受付：山溪 大分市生石1-3-1 097-537-3333

### 【講座の内容】

1. 山の自然と危険 —最近の気象遭難から—

講師 富山県立山カルデラ砂防博物館学芸課  
飯田 肇

2. 演題名 未決定

講師 公益社団法人日本山岳ガイド協会  
特別委員会委員 九里徳泰

なお、本講座は実技講座として、7/21(月曜日・海の日)に「湧蓋山登山」を開講します。参加費¥4000円(バス代、傷害保険料などの実費として)

問い合わせ 安東圭三(090-5727-9472)

## 支部月例山行等での 経費負担の申し合わせ

支部月例山行などでマイカーに同乗する場合の交通経費等の負担についての定期総会での申し合わせ事項

### (1) 燃料代等の経費

①車一台に対し、走行距離×30円、を運転者を除く同乗者で割り勘する。

②複数の車の場合、走行距離×30円×車の数、を運転者を除く同乗総者で割り勘し、集めた総額を運転者に等分する(ガソリン代150～170円の現状で)

### (2) 共同経費

レンタカー(レンタル料、燃料費、運転者謝金等)、フェリーボート、有料道路代、キャンプ経費および共同購入飲食料等は、総経費を運転者も含む参加者総数で割り勘する

※マイカーに相乗りか、レンタカーを借りるかなどは山行のリーダーや参加者同士でその都度決めてください。

## 「山の日」法案成立の見込み

8月11日を祝日・山の日とする「国民の祝日に関する法律の一部を改正する法律案」が4月23日午前の衆議院内閣委員会で賛成多数で可決されました。委員会では超党派「山の日」制定議員連盟の衛藤征士郎会長(自民)が、自民、公明、民主など9党派の共同提案者を代表して改正法案の趣旨を説明し、賛成多数で可決され、4月25日午後の衆議院本会議で可決されました。大型連休明けにも参議院での審議が始まり、今国会中(5月20日ごろ?)の可決、成立は確実と見られています。成立すれば平成28年から8月11日が国民祝日「山の日」となります。

## スズタケ枯死・シカの食害調査 参加者募集

日 時…6月7日(土)

場 所…本谷山西の稜線の定点観測地点

集 合…午前7時「道の駅・原尻の滝」

行 動…尾平越トンネル口から旧尾平越に登り、約1.2km登った定点観測地点で、大分植物研究会の

皆さんと共同作業を行います。

参加者…ボランティアで参加できる方は事務局までご連絡ください。

## 後 記

- ・「女心と春の空」と言うとそばにいる女性が必ず「あら、違うわよ、男心と春の空よ」と帰ってくる。広辞苑によると「男心と秋の空」らしい。とまれ、くるくる変わる春の天気。昔から「春こそ三日の天気なし」と言われるが・・・。
- ・しかし、近年の天候の変化はちょっと乱暴すぎるものを感じませんか。4月に入って3月上旬のような冷え込みと思えば、5月末のような夏日の気温。昔の日本では考えられなかった猛暑の夏や、大きな竜巻の発生など・・・。
- ・近年繁殖著しいアメリカセンダングサや日本の山野に満ちあふれているガビチョウのさえずり声。蝶のアカボシゴマザダラがやたら目につき、川や湖にはブルーギルやブラックバスが繁殖し、サメや垂熱帯の魚が日本近海にたびたび見られるようになっている。
- ・山で特に近年気になっているのがシカの異常繁殖で、今のままではもう九州の原生林は完全に無くなってしまふのではなからうかと思うほど。そして、深山のブナの枯死は見るからに無惨です。

(K・I)

- ※ 定期総会に出席できなかった支部会員には総会議案書を同封しましたので、是非ご覧ください。
- ※ 26年度支部費の納入について、同封の払込取扱標で郵便局で振り込みをお願いします。

## 公益社団法人日本山岳会東九州支部 東九州支部報 第65号

2014年(平成26年) 4月25日発行

発行者 加藤英彦

編集者 飯田勝之・中野 稔

発行所 事務局

〒874-0820 別府市原町5-14 飯田勝之方

TEL・FAX 0977-21-3437

Email yatomoki@ari.bbq.jp